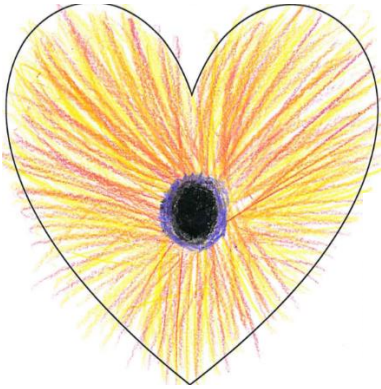


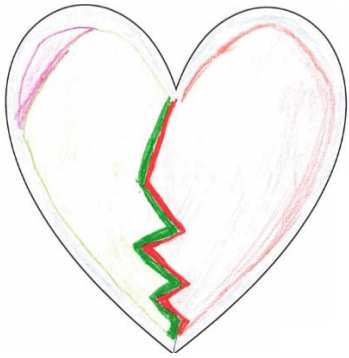
2019 年度ダラス補習授業校 小6「海の命」

●クライマックスでの主人公太一の気持ちを想像して色で表しましょう。



始めは、太一は自分の父を殺した大魚を殺してやるという気持ち（黒）だったけど、魚の目がおだやかなことに気づき（紫）、そして、この魚こそが父の生まれ変わりなのだと思い、心が明るくなった（黄・赤）

R.G



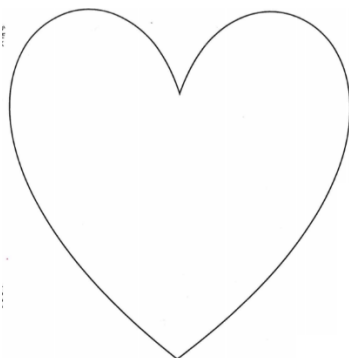
オレンジの勇気と緑の優しい心を持っている太一。父の仇のことで紫の怒りが沸き起こり、青の寂しい気持ちに包まれてしまっている。心の方から、勇気と優しさがギザギザとするが、敵を許す気持ちが生まれて、真っ直ぐな落ち着いた感じを取り戻した。

E.K



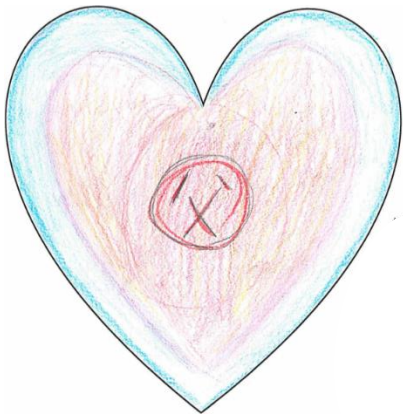
中央の灰色の部分は、太一が銀のあぶくを出した時を表し、赤色の部分が、太一がお父さんのことを思っでうれしくなった気持ちを表しています。外側の青色は、お父さんと与吉じいさを思い、太一の悲しみを表しています。

M.K



その時の太一の気持ちは、とう明で、色がない状態。心の中はクリアで、何も汚されていない感じ。ほっとして良かったなと思っている。

H.S



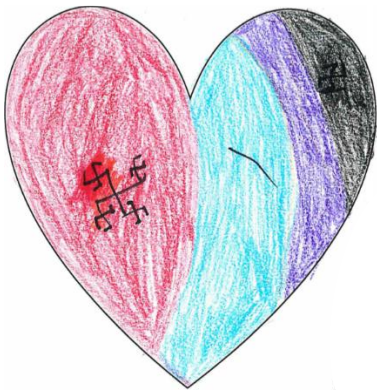
最初、太一はクエをとれずに泣きそうになっていたため、ハートの周りを青く塗った。が、父のことを思い出して、クエを殺さずに済んだため、「父」と書いてその周りを赤や明るい感じの色で塗った。

Y.F



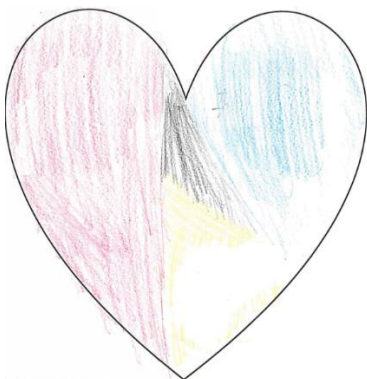
一つの場面でこのように様々な感情が表れるという点が非常に興味深かったです。特に、マイナスの感情である「かなしい」「しんぱい」から、プラスの感情の「げんき」「大好きだよ」への切り替えが印象的でした。

K.Y



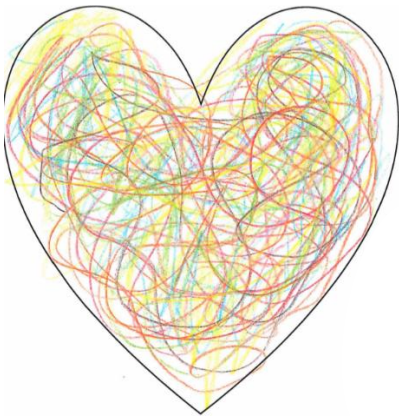
黒い部分は、父親を殺されてしまったうらみの部分。紫色の部分は、クエを殺すか殺さないかの迷っている気持ち。水色の部分は、父親を失ってしまった気持ち。赤い部分は、クエを殺さずに済んだ安心した気持ち。

K.O



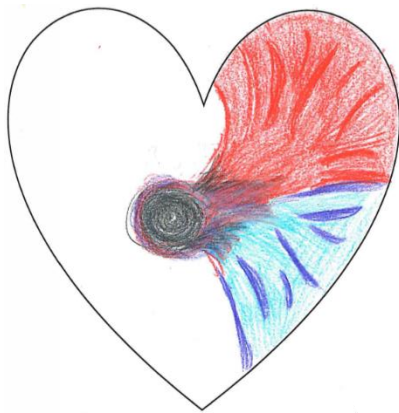
赤は、漁師になるためにがんばっている情熱を表していて、黄色は、大魚を殺さずに済んで幸せな気持ちを表していて、青は、父親や師匠がもうこの世にはいないという寂しさを表していて、黒は、お父さんが大魚に殺されてしまったことに腹を立てている気持ちを表している。

S.O



お父さんに会えてうれしい気持ちが表れています。

K.K



悲しみと怒っている気持ちが混ざって、苦しみをこらえる気持ちになる。

R.K



クエを殺さないといけないと、ずっと思っていた気持ちがここで急に軽くなり、クエに対する執着心から解放されていく色が、黒から黄色に変わっていった。

K.S



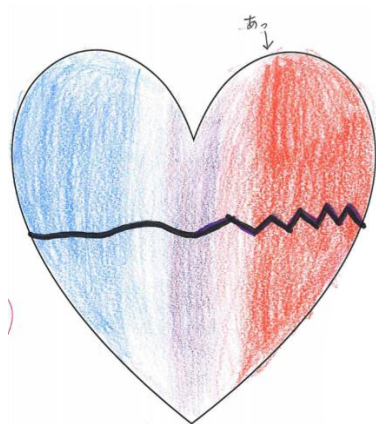
海の命のクエを生きさせたいと思う太一の心が赤、父の命を奪ったことに対する憎しみに殺そうとする心が青、心の目で大切なこと（海の命を殺さない）を見て判断した心が緑で表されています。

T.N



まぼろしの魚を見つけた時の復しゅうの気持ちと、殺さなければ一人前になれないという泣きそうな気持ち、殺さないと決めた時の落ち着いた気持ちを表した。

R.R



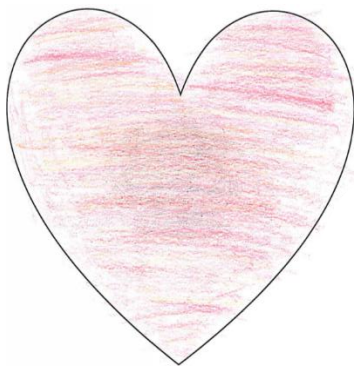
太一ははじめ、魚に恨みがあって、怒りで感情的になっていたが、何かきっかけで怒りの感情がなくなって、冷静に考えた。

S.W



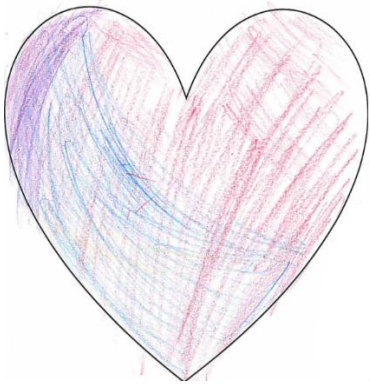
最初は、父を殺したクエを殺そうと思っていたけど、だんだん太一は「クエはこの海に居なくてはならない存在なのだ。」という気持ちに変わっていったから、心の色の変化は、青から優しいピンクに変わっていると思います。

A.S



中心の黒い部分は、父親を殺したクエに対する恨みや殺意を表している。周りの明るい色は、気持ちが変わって、クエを殺してはいけないという前向きな気持ちを表している。

Y.M



父親の死により半分悲しい気持ち。漁師になれたことで、残り半分がうれしい気持ちになれた。ただ、大魚をつかなかった後悔がある。

M.T



※記述なし

M.N